## 平成２６年度のあゆみ

「郷土岡上の歴史・文化継承事業」　平成26年度 麻生区地域課題対応事業

講座 史・資料から学ぶ

# 岡上の水と暮らし

「岡上」には、その谷戸地形とともに、古くからの史・資料が残され保存されて来ました。
それらを専門家のご案内で紐解きながら、また現在も尽きることの無い清水などのフィールドワークを通して、岡上の水とともにあった暮らしの歴史と文化を学びました。

| 回 | 日時 | 内容 | 講師 | 会場 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 9月12日(金)<br>午後1時30分<br>～3時30分 | 岡上と鶴見川 | 川崎市市民ミュージアム<br>学芸室長　望月 一樹 | 岡上分館<br>集会室 |
| 2 | 10月9日(木)<br>午後1時30分<br>～3時30分 | 岡上の谷戸の自然<br>－生きものと人がともに暮らす場所－ | 和光大学　教授<br>堂前　雅史 | 岡上分館<br>集会室 |
| 3 | 11月6日(木)<br>午後1時30分<br>～3時30分 | フィールドワーク　岡上の谷戸散歩<br>（荒天の場合は岡上分館で講義） | | 岡上分館<br>岡上地域 |
| 4 | 12月5日(金)<br>午後3時～5時 | 公開講座 検地帳を読む、地名を探る<br>－天正19年の岡上村御縄打水帳より－ | 成城大学名誉教授<br>池上　裕子 | 和光大学<br>J301教室 |
| 5 | 2月13日(金)<br>午後1時30分<br>～3時30分 | 岡上の水とくらし | 川崎市市民ミュージアム<br>学芸室長　望月 一樹 | 岡上分館<br>集会室 |

特別講座『写真で振り返る　岡上今昔物語』
日にち：平成27年1月30日(金)　場所：岡上分館　集会室
語り手：鶴岡郁さん、鶴岡勝さん、宮野敏男さん

（背景地図出典：明治15年旧陸軍陸地測量部によるフランス式彩色地図）

# 第１回　　岡上と鶴見川

日　時：平成 26 年 9 月 12 日（金）13：30～15：35
場　所：岡上分館　集会室
講　師：川崎市市民ミュージアム学芸室長　望月一樹氏
参加者：46 名

「水と暮らし」というテーマに基づいて、岡上地区が昔から鶴見川とどの様に関わってきたのか、この歴史を、地図や古文書から考察してみた。

鶴見川は、町田市上小山田町を源流とし東京湾に注ぐ全長 42.5 ㎞の川で、真光寺川・麻生川など 10 の支流が流れ込んでおり、岡上地域の北端、鶴川地域との境を流れている。

## １　鶴見川の水運

江戸時代、鶴見川の水運は重要な輸送手段であった。年貢米、下肥（人糞）などは鶴見川を通って運ばれた。当時の資料によると１年間に約 21,600 隻の船が鶴見川を行き来していた。江戸時代以前も同様に水運は発達していたと考えられる。それは鶴見川流域の 13～15 世紀の陶磁器の分布、板碑の存在などにより認められる。

## ２　岡上地域の鶴見川流路

現在の地図[図 1]を見ると鶴見川の北側に岡上の飛び地（黄色部分）があることから鶴見川の流路が変化したことがわかる。昭和 5 年の地図[図 2]ではこの飛び地は川の南側にあり、また真光寺川は岡上の北東部の境界を流れており鶴見川と真光寺川の合流地点は現在とは異なっている。

このことから、岡上地域の鶴見川は多摩郡と都筑郡との境界であったが、氾濫や護岸工事によって流路が変更され、現在のような境界ができたといえる。
さらに明治 15 年の地図[図 3]をもとに復元すると、岡上の北で北東に流れを変え真光寺川と合流する流れが元の鶴見川の流れであったと考えられる。

図１　現在の地図

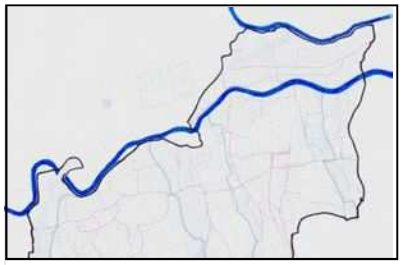


図２　昭和 5 年柿生・岡上組合村地番反別入地図

図３　明治 15 年フランス式彩色図

## ３　岡上地域の鶴見川の氾濫

岡上には、「鶴見川の洪水を防ぐため普請が必要であるが、この川浚人足を出すのを免除してほしい」との宝暦 8（1758）年の文書の写しが残っており、鶴見川の洪水に苦労していた様子が分かる。

# 第２回　岡上の谷戸の自然～生きものと人がともに暮らす場所～

日　時：平成 26 年 10 月 9 日(木) 13: 30～15: 35
場　所：岡上分館２階集会室
講　師：和光大学教授　堂前雅史 氏
参加者：44 名

## １　岡上は鶴見川流域にある湧水の里

流域とは、降った雨が最終的にその川に流入する範囲をいう。流域の境目を分水嶺または分水界といい、分水界に降った雨はわずかな距離の違いで別の川に流れ込む。流域を小さくすると源流域から支流域、さらに細かく区切ることもできる。

最も小さな流域として“谷戸”がある。上流に溜池があるのが典型的な姿だと思っていたが、岡上には溜池がなく、湧水だけで谷戸田を賄えてきている。

## ２　流域は生きものにとっての区切り目

流域は自然の地形の区切り目であって、行政的に作られた境界とは一致しない。例えば、和光大学の敷地は町田市 46%、麻生区 54%だが、自然の住所で言えば「鶴見川流域で、支流の川井田谷戸流域の三つ又にあるオオサカ山」となり、これは人間だけの住所でなく他の生きものにも通じる。谷戸の湧水に棲むドジョウは別の川に行くことはなく、谷戸(小流域)は一つの生態系とも言える。

絶滅危惧種ホトケドジョウはかつて谷戸に普通にいた淡水魚で、岡上では 2005 年に再発見された(岡上での地域名は“オバク”と言う)。現在和光大学の屋上で保護・繁殖させ、三つ又の田んぼ脇の池に戻している。

和光大学では、もともと川井田の流れにいたゲンジボタルの復活に 2004 年着手した。学生が毎年ホタルパトロールをやっているので、学生が自分たちを地域の人に知ってもらうイベントにもなっている。ホタルの復活が人と人を結ぶ役割をしている。

なぜ開発が進んだ場所に絶滅危惧種が棲んでいるのか。谷戸を残し、谷戸単位で考える意味がここにある。

## ３　川と人がかかわる歴史から学んで…

自然と人がかかわる豊かな歴史がある岡上。この歴史や地理から学ぶことによって、地に足のついた新しい都市型生活スタイルが生まれていくのではないかと思っている。

# 第３回　フィールドワーク　岡上の谷戸散歩

日　時：平成 26 年 11 月 6 日(木) 13: 30～15: 35
場　所：岡上地域
講　師：和光大学教授　堂前雅史 氏
参加者：26 名

## 1　散歩のコース

鶴川駅前　→　鶴見川旧河川・古川公園　→　大正橋　→　五反田橋　→
自性寺谷戸　→　梨子ノ木緑地　→　川井田谷戸(三つ又)　→　和光大学

## 2　鶴見川旧河川・古川公園にて

以前、鶴見川が大きくカーブして流れていた跡で、明治 15 年地形図では“への字”湾曲、昭和になって“∩の字”となり、大雨のたびに川筋が変った。

数年前, 地元の古川公園をきれいにする会の方々と和光大生が整備をはじめ, 現在は東京都南多摩東部建設事務所の工事により親水公園になっている。

## 3　梨子ノ木緑地にて

以前は一部ゴミ捨て場になっていたが、2003 年頃から地元市民が市へ要請して特別緑地保全地区に指定された。尾根道の向こう側の斜面は住宅地であり、山単位で都市計画を考えると野生生物にとっても棲みずらくなる。“緑の保護は谷戸単位で”を教えてくれる典型的な場所でもある。

## 4　川井田谷戸(三つ又)にて

ここの水田が三つ又と呼ばれるのは三方からの湧水が合流する地点だから。1996 年、田んぼ所有者の宮野薫さんのご好意により途絶えていた川井田地区のどんど焼きがここで復活した。現在、小田急線で新宿から来て最初に見える田んぼでもあり、鉄道マニア・写真マニアも訪れる。人間にとっても他の生きものにとっても素敵な場所となっている。

## 第４回 公開講座（共催：和光大学）
## 「検地帳を読む、地名を探る –天正 19 年の岡上村御縄打水帳（おなわうちみずちょう）より– 」

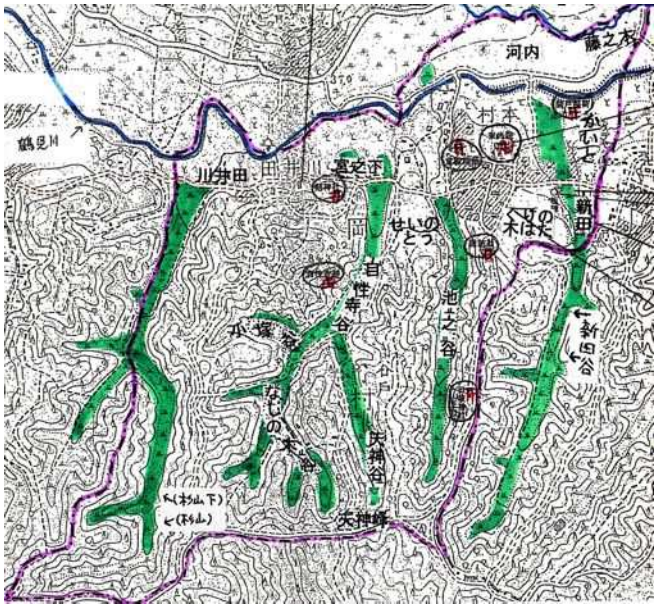
日　時：平成 26 年 12 月 5 日（金）15：00～17：00
場　所：和光大学　J301 教室
講　師：成蹊大学名誉教授　池上裕子氏
参加者：62 名

梶家に伝わった天正 19(1591)年の岡上村御縄打水帳という検地帳について研究している。ここ数年岡上に親しむ会(郷土誌会)の方々に何度も聞いたり、案内していただき、研究を深めて来た。その成果を生かし、**戦国時代末までの村人たちの営みを明らかにしたい。**

### 1　戦国時代末の岡上村の様子

天正 19 年の検地帳によると、村には 4 つの谷戸（川井田谷、自性寺谷・天神谷・小塚谷・なしの木谷、池之谷、新田谷）と小集落（川井田、宝殿、くりの木はた、かいと）があった。この時代には、1909(明治 42)年の地形図や 1947(昭和 22)年の航空写真で示されている田畑のかなりの部分が既にあったと考えられる。神社は剣神社、宝殿稲荷、諏訪社、日枝社、開戸稲荷があり、寺院は自性寺、東光院、妙泉寺があった。

鎌倉、南北朝、室町時代の様子は板碑や宝篋印塔が手掛かりになるが「人」には辿り着けない。




明治 42(1909)年 大日本帝国測量部製作の地形図に地名や神社などを書き込んだ
— 田んぼ　— 村境　— 川　○ 寺;神社(跡)

### 2　天正 19 年の検地帳（写）における田と畑

検地役人が、10 月 9 日から 14 日にかけて実施した。畑と田を「上」「中」「下」と 3 等級に区分して書かれている。全体では上田が 1 町 5 反余、中田が 5 町 5 反余、下田が 8 町 5 反余。畑は上畑が 5 町 1 反余、中畑 5 町 3 反余、下畑 10 町 8 反余。田んぼの検地では、河内にのみ上田。池之谷と自性寺谷南側小塚谷、天神谷、なしの木谷では下田が多い。自性寺谷の周辺では中田が多い。川井田には非常に広い田んぼがあった。かいとはそれほど広い田畑ではないが、御蔵屋敷があったと考えられる。

### 3　村人〔百姓・地侍〕が村政を運営

鎌倉時代には、板碑や東光院を建てるなど直接村と関わる領主がいたのではないかと推測している。南北朝・室町時代には小型の板碑や宝篋印塔を造立するような有力者が小集落ごとにいたのではないか。戦国時代には、北条氏直臣クラスの領主は年貢だけを受け取り、村との関わりはあまり持っていなかったのではないか。免田は貫高を北条氏が決めていたが、土地の割り当ては村で決めていた。岡上村では領主が村にいなくても村が成り立っていくような、村人〔百姓・地侍（織部、左京亮という武士のような名を名乗る有力者)〕による村の運営が 100 年位の間に出来上がり、江戸時代を迎えたのではないかと考えている。

最後に地域の歴史を学んで行くにあたっては、伝承を大切に記録すること、石造物を大事にする、風景を写真に撮っておくことが大事であるとのメッセージをいただいた。

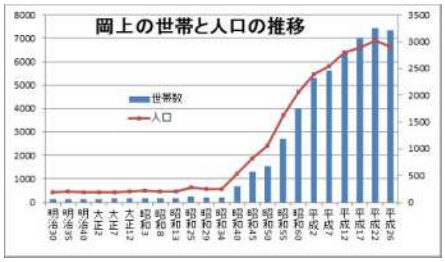
# 特　別　講　座　　- 写真で見る岡上今昔物語 -

日　時：平成 27 年 1 月 30 日（金）　13: 30～15: 40
場　所：岡上分館 集会室
語り手：梶司朗さん、梶武男さん、宮野敏男さん
参加者：29 名

岡上の「水と暮らし」に関連する写真と地図が、プロジェクターを２台使いながら説明された。写真がない箇所については、梶晴夫さんが描いた絵が使われ、昔の橋や子ども達の遊びを偲ぶことができた。また、鳥海輝治さんによる昭和 20 年代の盆踊りの歌（花づくし）も披露された。

明治 15 年発行帝国陸軍陸地測量部のフランス式彩色地図

昭和 18 年頃の岡上の住宅戸数
農家：64、非農家：6、合計：70




岡上の世帯と人口の推移
他町村との合併がなかったため、古くからの統計が存在する。

河川改修前の鶴見川。大正橋上流の大きな藤の木。

昭和初期の頃のぶらぶら橋と鶴見川。子ども達の遊び場だった。

昭和 60 年以前の本村橋。そばに馬頭観音が設置されていた。

河川改修後の鶴見川。場所は開戸親水広場。

ぶらぶら橋と思われる吊り橋。個人用のものであった。

昭和初期の頃の本村橋。まだ木製の橋であった。

＊暮らしの写真については、次ページに掲載します。

# 特　別　講　座　　- 写真集 -

茅葺屋根だった頃の東光院
山門

東光院落慶法要に参加の念
仏講の婦人達（昭和 37 年）

青年会が始めた盆踊りは、当初
東光院の庭で行われた。
（昭和 37～45 年）

昭和 27 年頃の岡上神社

岡上神社境内で行わ
れたどんど焼き

現在の岡上神社

茅葺屋根だった頃の岡上
分教場（昭和 15 年）

分校児童達の記念写真。当時
は複式授業（昭和 26 年）

分校が廃校になる前の記念
写真。（昭和 40 年）

養鶏で使ったオート三輪
（昭和 30~35 年）

昭和 30 年頃の三つ又
（和光大学前の田）

営農団地造成前の谷戸
（昭和 48 年）

昭和 20 年の鶴川駅

昭和 38 年 6 月の西町会
開発と田を望む

廃バスを利用した西町会会館
（昭和 49 年）

# 第５回　岡上の水と暮らし

日　時：平成 27 年 2 月 13 日（金）13：30～15：35
場　所：岡上分館 集会室
講　師：川崎市市民ミュージアム学芸室長　望月一樹氏
参加者：31 名

pho1 万力

pho2 水神祠

pho3 米櫃

暮らしの中に欠かすことができない水を岡上ではどのように利用していたかという利水に焦点を当てて文書や地図から考察する。

## １　川崎市域の利水について

川崎市域の多摩川右岸の沖積層地 55 の村々では**二ヶ領用水**の恩恵を受けていた。多摩丘陵地 25 ヶ村は谷戸地形をいかした**谷水**や谷戸の奥に作った**溜池**を利用していたことが馬絹村、末長村、王禅寺村の絵図からも分かる。

## ２　岡上地域の利水：岡上には溜池は存在せず、清水(湧水)、天水(雨水)を利用

慶応 4(1868)年「村差出明細帳下案」では、村内の地形は南から北へ下って行く谷戸で、田んぼは清水、天水を利用していたこと。元禄 16(1703)年の大洪水で用水堰が壊れ、上田に砂が入りその後は畑になってしまったことが記録されている。明治 3(1870)年「武蔵国都筑郡岡上村明細帳控」でも清水、天水の利用が記されている。谷水は川井田堀、梨子の木堀、池の谷戸堀、下田川の 4 筋の流れとなり田んぼに水を供給していた(「皇国地誌草稿」「神奈川県都筑郡柿生・岡上組合村地番反別入地図」)。また明治 6(1873)年「数目調書草稿」によると井戸が 59 ヶ所あり家の数 57 戸より多く、生活用水・耕作水として利用されていた。これらは、岡上は谷水(清水-湧水)が非常に豊かであったことを示している。

## ３　鶴見川の水は「水車」で精米・製粉・製麦・蚕糸加工などに利用

### ① 岡上にはいつから水車があったか？　今回、天保 8 年まで確実に遡ることができた。

陸軍省が作成した「徴発物件一覧表」には明治 16(1883)年に一基、同 24(1891)年には二基の水車がある。明治 3 年「岡上村明細帳控」には水車稼壱戸。慶応 4 年「村差出明細帳下案」では農間商売水車とある。それ以前はどうかと岡上に残っている「年貢皆済(年貢を納めた領収書)目録」で水車運上金(水車経営にかかる税金)を調べて行くと、天保 8(1837)年に水車運上 125 文の表記があった。天保 7 年以前には水車運上の表記はなかった。岡上における水車の営業は、今ある資料からは、天保 8 年まで確実に遡ることができる。

### ② 岡上の水車はどこにあったか？

『川崎の水車』(昭和 63 年発行)によると**「森水車」「梶水車」**の二つが記されている。**森水車**は鶴見川左岸大正橋のすぐ近くにあって、能ヶ谷の 勘車(かんぐるま)(森勘之介さんが水車場を運営)と同じ物で、岡上の人は橋を渡って米を搗きに行ったそうである(宮野薫さん談)。**梶水車**は森水車より大きく天保 8 年からあった水車はまさにこれだと思われる。本村橋(くるまん橋)のたもとにあった。梶さんの家の屋号はクルマ。水車の中心になる万力 pho1 や祀られていた水神祠 pho2 は現在でも同家に保存されていることが梶晴夫さんによって確認され、文久 2(1862)年銘の穀櫃 pho3 は探索中である。まさに史・資料から学ぶ歴史の宝庫＝岡上である。